

状況を想定、地震発生のアナウンス後返血せずに患者を透析回路から緊急離脱後、職員に誘導されて一時避難場所に避難するというところまでの流れを理解し、患者自身がどう動くか、職員は何をするのかという事を確認する。なお訓練にあたり、透析を一時中断しての離脱・誘導は安全上困難なため、離脱以降の行為に関しては説明するにとどめる。訓練後、アンケート・行動確認チェック表を記入してもらう。

Ⅲ. 結果・対策

被災時の手順は、箇条書きで目に付くところに貼ってあり、4項目すべて実行できた患者はいなかったが声をかけるとすぐにできた。アンケートでも「何

をすべきか理解できた」が「いざというときにすぐできる自信がない」「繰り返しやってほしい」という意見が多かった。避難の際に何を持っていくのかということや、指示があるまでベッドを降りない、靴を必ず履くということは理解されている。また、アナウンスが聞き取りにくかった患者もいたため次のシフトからはメガホンを使用した。今回、新たに患者カードを作製し、離脱ポーチの内容も再検討した。また、安全を考えコンソール上のトレイを撤去した。「実際に避難先まで誘導されるところまでやりたい」という要望もあり、今後定期的訓練を行う中で検討していきたい。

食中毒0をめざす栄養課での取り組み

栄養課 杉山 貴紀 小野田昌己

I. 要 旨

栄養課では、近年問題になっている食品偽装の問題や、ノロウイルスなどの食中毒における衛生管理など数多くの問題への対応に迫られ苦慮している。

日頃、栄養士と調理師が食中毒0をめざして取り組んでいる衛生管理について報告する。

II. 目 的

私たち栄養課は、日々患者に満足していただくよう、おいしく安全な食事の提供を行わなければならない。栄養課職員、委託職員の衛生管理の意識を高め、施設内の衛生管理を強化することを目的としている。

III. 方 法

- ①食材の厳選と衛生管理を再確認し強化した。
- ②厚生労働省の大量調理マニュアルをもとに当院独自の衛生マニュアルを作成し管理した。
- ③衛生管理の普及啓発として、課内勉強会の実施を行った。

IV. 結 果

1. 納品業者から食材のトレイサビリティーを入手

し、原産国や加工地を再確認し、中国食材および、中国加工食材を極力使用しないようにした。

2. 服装や手洗い方法、調理器具の取り扱い、食品の取り扱い、水道水の管理、調理中の注意点、施設内の消毒方法、下膳時の対応、健康管理などを記載する事により、適切に衛生管理が行われているか確認し、問題点の改善措置を講じている。
3. 衛生マニュアルの抄読、フードスタンプによる細菌検査での問題箇所の改善、調理師で組織された衛生係による抜き打ちによる手洗い検査及び指導などにより、食中毒を出さないための手順を再確認することができた。また、ノロウイルス感染者の嘔吐物処理方法の実技指導を行う事によって栄養課職員の衛生管理への意識が高まった。

V. ま と め

食中毒事故を起こすと、業務停止や損害賠償など重い処分等を受けるほか、患者に多大な迷惑をかけることになり病院の信頼を落としかねない。そのため、栄養課職員一人一人が衛生管理の高い意識を持ち続け、おいしく安全な食事の提供を目指していきたい。

継続した子育て支援を目指して ～ キッズ講座の開設と経過 ～

7-1 病棟 杉本ちえみ

I. はじめに

少子化や核家族化が進む現代は育児で悩んでいる親が多く、育児に対する支援が求められている。実際、入院中の母親達から病気の時の対処方法や育児の不安を耳にすることが多い。

当病棟では平成16年度より外来と連携し、患者サービスの一方法として育児に対する情報提供を行い、医療従事者の立場からの子育て支援を目的に“キッズ講座”を開設した。病棟のキッズ講座係が中心となり、企画・運営を進め、今年度で開設5年目を迎えたため、これまでの経過をまとめ、報告する。

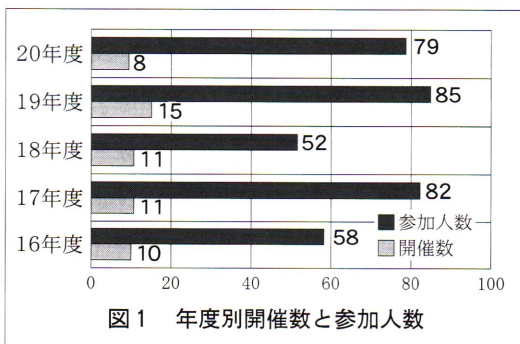
II. キッズ講座の目的

病棟スタッフなどによる子ども相談を患者サービスの一方法として実地し、医療従事者の立場での子育て支援を行うこと。また「幼児安全法短期講習会」を実施し、赤十字講習活動の普及に努めること。

III. ま と め

平成16年度よりキッズ講座を毎月1回開催してきた。

例年参加人数が2桁に届かない月も多く、参加人数を増やすことは毎年の目標である。そのため毎年インフォメーションの拡大を図り、キッズ講座を多くの人に知ってもらうよう努力した。



講師別に見てみると、外部講師によるものが開催回数、参加人数ともに一番多い(図2)。外部講師によるベビーマッサージを16年度より開催しており、19年度からは毎月開催している人気の高い講座である。

内容別に見てもベビーマッサージが開催回数も多く、参加人数も多い(図3)。またキッズ講座を開設した当初は幼児安全法を多く開催するなど講座内容に偏りがあったが、母親達のニーズに合わせて他部門と連携しながら充実した内容の講座を開くことができています。

